



Title	日本におけるオルレの推進について
Author(s)	李, 唯美
Citation	CATS 叢書, 12, 69-85 歩く滞在交流型観光の新展開 The New Development through Extended Stay and Interactions with Locals in Walking Tourism
Issue Date	2019-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73760
Type	bulletin (article)
File Information	CATS12_9.pdf



[Instructions for use](#)

日本におけるオルレの推進

李 唯美 (イ・ユミ)

社団法人済州オルレ日本支社長／宮城オルレ推進アドバイザー

皆さんこんにちは。今日はみなさん、とても難しい話をされたので、日本語がうまく出てくるか分からないのですが、よろしくおねがいします。

資料が出るまで、少し私の自己紹介をさせていただきます。2004年に結婚して、福岡に3年間住んでいたのですが、先生も九州出身と聞いて、九州からたくさんの方も参加されていてうれしく思っています。九州観光推進機構で韓国担当としてインバウンド業務を12年間担当しておりました。その中で済州オルレを九州に導入したいと思って、7年前からオルレに関わっています。去年、九州観光推進機構を辞めて、岐阜に住んでいます。名簿に岐阜の方もいらっしやってまたすごくうれしく思っています。主人が4年前に岐阜の企業に転職して、家族バラバラで生活していて、3年間主人が単身で頑張ってくれたんですけど、去年からやっと一緒に家族で暮らすことができました。現在は、済州オルレ日本支社長として、済州オルレを日本に知らせる仕事、オルレに興味がある方たちにいろいろな取り組みを教えています。宮城オルレの推進アドバイザーをしているのと、韓国の放送局関係のコーディネーターの仕事をしております。

私が北海道にくるのは3回目になります。オルレの初めての講演会が北海道だったんです。上富良野町で、そこで初めて神谷先生、小川先生にお会いしたんですけども、今回、北海道で話ができること本当にうれしいと思います。

九州オルレは2012年に4コースオープンするところから始まりました。2011年に九州観光推進機構と済州オルレが業務提携を結ぶことから始まり、毎年新しいコースをオープンしています。21コースまで認定されて、ちょうど先週なのですけれども、筑豊・香春コース、さいぎ・大入島コースがオープンして、それぞれ600人、700人が集まってコースを歩きました。このようにコースが集まって、今は21コースなんです。

済州オルレと違って、九州オルレはまったく官から始まったものです。九州観光振興機構は、コースの認定、九州オルレ全体のブランド管理、済州オルレとのコミュニケーションという役割を持っています。九州は7県ありますけれども、九州観光振興機構はこの7県を通じて仕事をしているんですね。北海道観光振興機構の方もいらっしやるので分かるかと思いますが、民と官が一緒にできた組織です。この中には7県が入っていて、7県に九州観光振興機構が文書を出してコースを募集します。一番最初の年はどのようにコースを作ればいいのかまったくわからなくて、最初にコースを募集したら、九州全体で28コースぐらい出たけど、その中で4コースを決めたのですけれども、それはとても大変だということ

とで、翌年からは頭を使って県で募集して、県内で審査してもらって、いいものを九州観光振興機構に出してもらおうようにしました。

九州オルレ 21 コースがあり、20 自治体が入っています。市もあれば、町もあります。九州オルレの地域協議会というのを作って、各コース毎年 40 万円会費を負担しています。その中から、イベントの実施、ガイドブックを作ったりして、イベントの方法などの仕事をしています。3つの、いやたくさんの各団体がうまくいっているから、九州オルレがいろいろなところに紹介されていますが、私たちにも課題はいくつかあり、いかに地域の人たちと関わってやっていくかが課題です。

九州オルレの標識は済州オルレと同じものを使っています。色は朱色ですけれども。同じものを使う理由は、韓国の人も初めてくる日本でも分かりやすいようにするためです。標識を見ながら歩くと、ガイドがいなくてもガイドがいるかのようにすべてのコースを歩くことができます。21 コース全部歩くと何日かかるでしょうか。九州は済州島よりもっと広いので、最低で 21 日。歩いて、移動して、歩いて、移動してとなるので、最低 21 日。そうじゃないとだいたい 1 カ月くらいですね。最初はコースを全部歩く人いるのか心配でしたが、コースを全部歩いている人は 160 人いらっしやって、済州に比べるとまだまだ少ない数ですが。その中で韓国人が 40 人。日本人 120 人くらいいます。160 人の中で最年少は 6 歳、最高齢 82 歳の方がいます。北海道の方も 1 人全コースを歩いています。九州観光振興機構のホームページに出ていますので確認することができます。

韓国人は、済州と同じで、九州は 2 泊 3 日の安近短の観光地だと思っていたので、何回も何回も訪れる観光地ではありませんでした。でも、オルレがあることによって、皆さんが「九州がこんなに大きいと思わなかった」と言っています。別府と阿蘇と福岡しかわからなかったけれど、九州には天草もあるし、この間オープンした、さいき・大入島は 700 人住んでいる島なのですけど、先日コースオープンで 600 人が歩きにきてくださいました。

九州オルレを作るときは済州オルレよりも細かく原則を立てていました。済州オルレはタクシーやバスがよく通ります。コースができることによって、コースのスタート地点までバスが通ったりしていますが、九州の場合は、最初から 1 人でもコースにたどり着けるように、公共交通機関があるところにしています。そこが済州とは違うところです。九州の山や森は深いところもあるので、エスケープルートがあるかどうかも確認しています。また、みつばちの養蜂所、養鶏所、養豚所などを通らないようにしています。トイレをこまめに作ったりしています。このようにコースを厳しく計算して作っているのも、ほとんどのコースがいいコースだと評価してもらっています。それにプラス済州にはない温泉があって、歩いたあとに温泉に入ることができたり、済州にはない鉄道があるので、JR 九州に乗って駅弁が楽しめるなどもいいですねと評価をいただいています。

宮城では、「みちのく潮風トレイル」と気仙沼の唐桑コースというところが 3km くらいだけ重なるところがあります。宮城オルレもやるとなると、去年の 11 月に協定を結びました。やることになったきっかけは、宮城にほとんどの外国人、日本人が観光で戻ってきて

いるけれど、韓国の人は観光ではほとんど戻ってきていないといわれています。それで、九州オルレの成功例を見て、韓国人に戻ってきてほしいということで始まった話です。もちろんオルレのコースは日本人も歩きます。

宮城オルレのコースは、東松島市、気仙沼市の唐桑コースのまずは2コースが10月にオープンする予定です。大崎市のコースはまだ準備ができていないので、来年度の予定かなと。とりあえず宮城県としては8コースオープンする予定です。

オルレはもともとある自然を使うのが魅力かなと思うのですが、これは八女の茶畑です。もともとある風景なのですが、ここに道を通すことによって、何もない里山を歩いたあと、この茶畑に出て、みなさんがハッと声を、歓声をあげるんですね。このような地域に隠れている宝ものを探すのがオルレの魅力かなと思います。

また、九州オルレは地域の食が豊かだなと歩いてみて思うのですが、豚汁というのも地域によって違います。鹿児島はさつま汁といって鶏肉が入っていたり、別府の方ではだご汁といって麺を入れたり、島のコースにいけば、あまべ汁といって魚を入れてくれたりして、豚汁ひとつでも食の豊かさを伺うことができます。ローカルな、ここ、高千穂コースの小さな学校だったところ、廃校だったところをレストランに改装して、山菜などの天ぷらなどの定食を提供しています。地域の食事を食べるのが九州オルレの魅力だと思います。

小さな文化、歴史と書いたのですがけれども、九州には各地各地に歴史や文化があって、小さな文化歴史に見えるかもしれませんが決してそうではないなと思います。八女コースには、6世紀ごろの古墳があり、この辺りを統治していた筑紫君磐井の文化が残っている地域ですし、宗像・大島コースには、沖ノ島に入れない女性たちが遙拝するお宮もあります。また、日露戦争のときに使おうと思って作った砲台跡などもあります。小さいかもしれないけれど、掘ってみたらすごく面白い歴史や文化が残っています。

オルレの魅力としては、歩いたあとの温泉、足湯があったり、歩く途中に出合うこういう景色にあります。謙遜して「小さな」と言ってますが、本当に九州ならではの温泉と景色を楽しむことができます。奥豊後コースにある岡城跡、荒城の月という歌でも有名なお城ですが、ここで3つの山を見ることができます。九州には6つの日本百名山がありますが、そのうちの3つの阿蘇山、祖母山、九重山を見ることができるというのは素晴らしいことだと思いませんか。左にある写真、私の息子なのですけれども、さっき言った最年少の九州オルレ踏破者です。

オルレの魅力に交流は欠かせないのですが、左上はアン理事です。歩いている途中に、地域の方がアン理事にみかんを渡しているところです。志賀さんもおっしゃってましたが、熊本の下のほうに行くと、接待がホントにありまして、みかんとかレタスとかタケノコとかダイコンとかサツマイモとか重たいのですけど、くれるので、地域とのふれあいが感じられるなと思います。また、南塩原コースではトイレがなくて困っていたのですが、地域の方がはなれを提供してくれて、トイレや休憩を提供してくれました。先月聞いた話だと、

実はその方のトイレが最近のウォシュレット付きとかではなかったの、それが悪いと思っていたのか、自分で50万円かけて、最新のウォシュレット付きのトイレにしてくれたときいています。唐津コースでは、毎年日本と韓国の学生が手をつないで歩くという交流をしています。言葉が通じなくても、先ほど臼井さんもおっしゃってましたが、夫婦は正面見ないほうが良いといますが、日韓の関係もそのほうが良いのかなと思います。私も主人が日本人なので、毎日日韓戦なので。手をつないで歩くことって本当にいいなと思っています。上の写真は旅館民泊の写真です。ここ、志賀さんは竹田市出身とおっしゃってましたが、竹田市と豊後市はホテルが少なくたくさんの方がいつべんに泊まれるところがなく、そこで始めた農家民泊ですが、みなさんが一番ここで感動して帰られます。

オルレの中で魅力なのが、交流、人だと思えます。道を歩くときに地域のおばあちゃんがアニョハセヨと声をかけてくれたり、子どもたちが韓国人か日本人か見分けがつくという素晴らしい才能が育てられています。日本人には「こんにちは」、韓国人には「アニョハセヨ」とあいさつしてくれます。トイレを貸してくださる方もいますし。あと、地域の何もなかったスポットにかかしを立ててくれたのですが大分弁で「よくきつちよるね」と書かれていて記念写真を撮れるようになってはいるんですが、行くたびにかかしが増えていくんですよ。子どもや犬やサッカーボールやお弁当やらが増えていて。ここは今記念撮影するスポットになっています。よく見ないと誰が人かどれがかかしか分からないと思うのですが。オルレは今どんどん地域に根付いて、進化をしているんですね。去年は八女コースで、クリスマスオルレやハロウィンオルレで変装して歩いたり、スタッフが一番楽しんでいるんですよ。市と市を超えて、県と県を超えて、南島原コースとみやまコースが手を組んで今日と明日イベントを行っています。春のオルレフェアとして各地域でイベントをしています。これは各コースのマップを入れているラックなのですが、ほとんどのコースに行くと、ほかのいろいろなコースを紹介して、互いが広報するようになりました。県や市の方は分かるとおもうのですが、ほかの地域をPRするのは難しいと思うんですね。北海道の場合、ロシアに行ってください、青森に行ってくださいとPRするのと同じくらい難しいことを、九州オルレではやっています。

これは済州の場合なのですが、クリーンオルレ、歩く人たちが進んで完成と書いてくれたり、ハートを書いたり、コースをきれいに飾ってくれたり。またボランティアの方たち、ソウルから来た方たちが歩く人を歓迎する写真なのですが、私は歩くときにこれに力をつけてもらったり、感謝しています。

これは済州オルレがプロデュースしたわけではないのですが、コースを歩くときにポストがあり、はがきとペンが置いてあって、1年後手紙を送りますと書いてあります。本当に書くと1年後に届くようになっています。そういうサービスを村がボランティアでやっています。歩く人たちをウェルカムするような壁画ですとか、歩く人たちが疲れなないように無人カフェもあります。有料なのですが。韓国人は現金を持たないので、お金がない、現金がない人のために口座番号が書いてあったり。トイレやWi-Fiを使えるようにしたり、

お茶を飲めるような休憩スポットも作っています。

映像もあったのですが、また呼んでくださったら、1時間半の講演で流すようにします。以上で終わりにします。

<<質疑応答>>

石丸幸夫

まず、李さんのお話は、同じ広域の観光振興機構の組織同士ということで、よくわかりました。これまで、北海道へのインバウンドは、中国、台湾、そして韓国という順番でしたが、近年、韓国からのLCCの直行便が増えたことから、韓国からが急増し、中国、台湾という状況にあります。本日のお話を参考にして、韓国からのお客様の数をもっと伸ばしていければなと思いました。

また、安さんのお話を聞いていて、現在、道庁から観光振興機構に派遣されておりますが、済州島に対するイメージはIRやカジノでしたが、今日のお話にはそれがひと言も出てこなくて、イメージがかなり変わりました。北海道と済州島は、同じ島同士ということで、近年交流が始まっておりまして、一昨年（2016年）に、北海道知事が済州島におじゃまして、済州道の知事と友好協力協定を締結しております。その時のテーマとしてはジオパークなどがありましたが、済州オルレのお話を今日聞きまして、とても参考になると思いました。今後、北海道と済州島が交流するにあたり、北海道でもロングトレイルやフットパスが盛んですので、これらが交流の柱になればと思っています。

済州オルレを参考にさせていただくにあたり、2点質問したいのですが、済州島は特別自治道という扱いになっていると聞いていたのですが、今日のお話では、州政府や行政の話がなく、民間主導の取組みがベストとは思いますが、民間主導の中でも行政が関与するような部分があったのかお伺いしたいと思います。

安殷周

宮城オルレをやると韓国全体でニュースになったさいに、ぜひ北海道でも作ってほしいと要請をもらっています。

最初はまったく民間主導で始まったのですが、済州に訪れる観光客の5分の1は純粋にオルレを歩きたいという人なので、比重が大きくなってきているので行政もオルレに目を向けてくれるようになっていきます。お金がかかること、特に大金が必要なことは行政にお願いすることもあります。まずはトイレですね、トイレを設置するには大金がかかるのでお願いしています。それからコースは、私たちははじめ1人くらいが通ればいいと小さな幅でコースを作っていたのですが、100万人、200万人と人が歩くので、踏み過ぎて道が広がる、疲弊するという被害があるので、道が自然から欠損するのを防止するためにヤシの実で編んだマットを敷いてもらったり、絶壁の場所に安全なフェンスを作るなどは

行政をお願いしてやってもらっています。来週なのですが、済州オルレができて 11 年目にして済州島庁と協定を結びます。済州オルレと済州島庁の役割を分けているんですよ。お互いの役割をはっきりして、シナジー効果を出せるか、それが協定内容となります。ポイントとなるのは、オルレの維持管理は済州オルレが、ハード的なお金がかかるトイレなどは済州島庁が果たします。答えになりましたでしょうか。

石丸幸夫

ありがとうございます。もう一点、これだけの規模の社団法人を運営される済州オルレの事務局スタッフの数と年間予算について、教えていただければと思います。

安殷周

済州オルレの純粋な事務局の職員は 15 人おります。済州オルレは、社団法人済州オルレのほかに記念品の制作販売をしている社会的な企業があり、それと標識や記念品のデザインを作るデザイン会社があり、済州オルレと合わせると 30 人になります。済州オルレの事業費は年間 1 億円です。3 つの団体全部を合わせた事業費は 3 億円ですね。

尾久土正己

学部長の代理で来たのですけれども、天文が専攻ということで、お役に立つかなと思っていたのですが、実は和歌山大学で一番歩いているのは私でして、京都から高野山までとか、和歌山から奈良へ歩いているとか、学生たちと歩くイベントをやっています。そのときに困るのが、学生たちに、例えばおごってあげるから歩こうとかいろいろな餌を用意しないと一緒に歩いてくれないんですね。でも学生と一緒に歩くと、地域の人が声をかけてくれます。50、60 代だけで歩いていたら素通りする地域の方たちが、20 代の女子学生がいるとものをくれたり、声をかけたりしてくれるんですね。そのことに絡めて質問なのですけれども、済州で歩いている年齢層というのは、若い人、いわゆる 20 代の大学生みたいな人はいるのでしょうか。それから 700 人も年間で完走するというのは、普段から韓国人はたくさん歩くのでしょうか。そこを教えてください。

安殷周

韓国の人も最初から歩くのが好きだったわけじゃないです。済州オルレを歩いている人を見て、済州の住民たちがトラックを停めて、「なんで歩いているの？トラックに乗りなさい」といつてくれるほどでした。歩く文化ありませんでした。今は、人が歩いているのを見ると、みかんをくれたり、「よくきたね、頑張ってるね」と声をかけてくれるようになり、自然と歩く旅行が広がりました。それは、歩いてみると新しい地域の魅力を発見できるということなのですけれども、済州オルレの一番の宿題もどうしたら 20 代が歩くかで、私の娘 21 歳なのですけれども、絶対に歩かないと言います。娘が 12 歳や 15 歳のときは一緒

に歩いたのですけれども、大学生になって一緒に歩こうというと、ゆっくりするのんびりするスポーツは好きじゃない、ダイナミックなスポーツが好きといます。3年前から、20代のボランティアを育成しています。済州オルレをサポートするグループを作りながら、20代のオルレを歩く人を増やしているというところですよ。たばことお酒と同じく、歩くというのも中毒性が強いと思っているので、歩いた学生ははまると思っています。

尾久土正己

ありがとうございます。もう一つ、九州のほうで、意見というかコメントなのですけども、今日この前に九州自然歩道の話があって、枝があるけど実がないぶどうというのがあったのですが、これくっつけたらいいんじゃないかと思ひまして。以上です。

李唯美

補足説明なのですが、オルレでも九州自然歩道を活用させてもらっており、九州自然歩道の方にも環境省の方にも感謝しています。この場を借りてお礼を申し上げます。九重コース、霧島コース、奥豊後コースなど、何か所かを貸してもらっています。本当にいい道であることを分かっているのも、もっとこのいい道を活用できたらいいのと思っています。私たちは初めてお会いしたのですけれども、仲がいいです、ケンカはしていません。九州にはフットパスもたくさんありますし、フットパスも自然歩道もオルレもぶどうのようにお互いに歩く文化を創造していけたらいいなと思っています。

西山徳明

このように、この場を通じて新しいアイデアやネットワークができるという可能性を感じるお話ですね。もうちょっとだけ、せっかくお話しいただきましたのでフリーディスカッションでコメントをいただければと思います。松本さんどうぞ。

松本秀人

貴重な講演ありがとうございます。カムサハムニダ。単純な質問なんですけれども、参加人数が増えれば増えるほど、私有地に入ったり、ゴミが出るとか、騒がしくなるとか、地域の人の生活を脅かすこともあると思うのですが、済州オルレではそういうトラブルはなかったのでしょうか。

安殷周

韓国の言葉で、個人の場合は教養があっても、群衆となれば道徳心がなくなるというものがあるんですね。だから、先ほどちょっと話をしましたがクリーンオルレは、海洋ゴミの問題もあるのですが、団体で歩く場合、ゴミを捨てる問題もあるので、歩く人の意識を変えなければと思ってキャンペーンをしていました。また、済州オルレを歩く人には、済

州オルレのマナー、エチケットをお伝えしています。私有地に入るときに守るべきこと、自然保護などを詳しく説明してお伝えしています。

毛谷村英治

今日はどうもありがとうございました。最初、オルレを思いつかれたのが、サンティアゴ・デ・コンポステーラからということで、日本でも四国八十八箇所や上五島の教会群を歩いてまわるの楽しいんですね。宗教的な施設を回って歩くというのは使えるなと思っていたのですが、日本人の場合は宗教というか、信仰心があまりないので、信仰の対象になるところを歩いていると、最終的にその施設の方に被害を与えてしまうのではないだろうかと思っているんです。敬虔なカトリックの信者さんがサンティアゴを回るのはいけると思うのですが、観光地にすると失敗するだろうと思っていたのですが、濟州オルレの場合は、そうではなく、一般の人の生活を見せる、自然景観を見て回っているの、非常にうまくやっているなど、とても参考になるな、嬉しいなと思って見ていました。

お伺いしたいことの一つですが、サンティアゴ・デ・コンポステーラの場合、最近自転車でもまわるということが出てきているのですが、濟州オルレも自転車を使うのであれば若い人も参加するのでしょうか、濟州オルレは自転車を使っていいのか、悪いのか。また、今後日本でも展開していく場合、歩かないと魅力はないのか、自転車では味わえないのかということをお教えいただければと。

もう一つの質問は、九州オルレのいただいた資料の中に、社団法人濟州オルレとの業務提携と書かれているのですが、マークやロゴなどを使っているのですが、お金を相当お支払いしないと契約できないものなののでしょうか。どういうふうに契約をしていらっしゃるのかをお教えいただければと。

安殿周

オルレには自転車では入れない道があるんですね。森の道や少し山の道など、寄生火山など。山に入ったときは小さいから入らないのと、自転車が入ってしまうと道が自然が棄損されてしまう可能性があり、また、狭い道で人とぶつかってケガをしてしまうと困るので、自転車は海岸専用道路だけを使ってくださいとお願いしています。

九州オルレとの業務提携ですが、これは宮城も同じですが、お互いの役割を示す内容ですね。九州オルレは、名称、標識、デザイン、職員の派遣などを使わせてもらっています。濟州オルレのほうは、試行錯誤しないように、新コースの審査、運営管理のノウハウ、コースがオープンするまでの手伝いなどを行っています。濟州オルレは年間 100 万円いただいています。また、韓国のマーケットに、九州オルレ、宮城オルレを広報しています。オープニングの際には、韓国の有力なテレビ、3 大新聞、雑誌などのプレスリリースをしています。



日本におけるオルレの推進について

2018.3.17

李唯美

九州オルレ

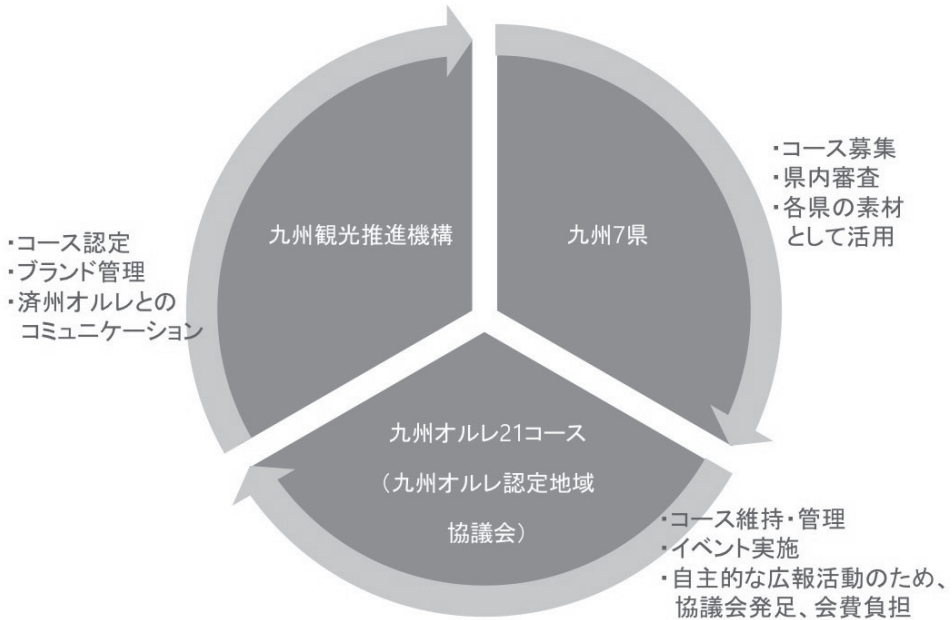
九州オルレの始まり



- 2005年 九州観光推進機構設立、韓国担当
 - 韓国は九州にとって最大のインバウンド市場
 - プロモーション素材は温泉とゴルフ
- 2007年 「LOHAS九州」
 - 30代の働く女性、ゴールドミスターゲット
 - 高級温泉旅館を使ったワンランク上の旅をPR
- 2009年 「トレッキング九州」
 - トレッキングや登山を中心とした九州の山々をPR
 - 韓国では「済州オルレ」が大ブーム
- 2011年 (社)済州オルレと業務提携 「九州オルレ」
- 2012年 第1次の4コースをオープン
- ...
- 2018年 九州オルレ21コースが認定されている。



久留米・高良山コース



3





日本におけるオルレの標識



日本におけるオルレコース造成の原則



全 般	<ul style="list-style-type: none"> ・道自体が主役であり、歩くことを楽しむことができること ・コースにオリジナリティがあり、単にポイント（見どころ）のみをつなぐ道でないこと ・アスファルトをできるだけ避け、幅の狭い小道が主であること ・地域の協力体制があること ・地域独特の景色や歴史背景等の物語があること ・車道が多いトンネル道は避けること ・コースの距離は15キロ前後で、道草をしながらゆっくり歩いても8時間以内であること ・中間地点からのエスケープルート（2km以内に駅やバス停）があること
景 観	<ul style="list-style-type: none"> ・歩くことでしか見られない景色や見どころがあること ・展望台（ビューポイント）等があること ・2～3kmごとに景観（景色）の変化があること ・養豚場や牛舎・養鶏（・養殖場）付近（放牧は自治体で判断）を避けること ・工場（鉄工所）や採石場、重機等が見える所を避けること ・ゴルフ場付近を避けること
危険回避	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや高齢者、女性でも歩ける安全な道であること ・険しい登山コースを避ける（一度に登る標高差の目安が200メートル以内程度）こと ・スズメバチの巣等が無いこと
公共性	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂、売店、トイレ設備が一定の間隔にあること ・始点、終点付近への公共交通がある（1km以内）こと ・宿泊地から公共交通でアクセスできること



日本側 NHK、読売新聞、河北新聞、石巻日々新聞・・・

韓国側 KCTV、朝鮮日報、連合ニュース、ソウル新聞・・・ 多数露出

コース設定にあっては、短期目標として、次の気仙沼市唐桑、東松島市及び大崎市鳴子の3コースを設定することとし、中期目標として、南三陸町歌津、石巻市雄勝、石巻市金華山、涌谷町及び松島町の5地域を加え、8コースの予定。



大崎市鳴子

川渡、東鳴子、鳴子、中山平、鬼首の5つの温泉地からなる鳴子温泉郷は日本を代表する温泉地の一つ。温泉街は湯気や温泉の香が漂い、古き良き日本の情緒が味わえるほか、春の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色が素晴らしい地域。

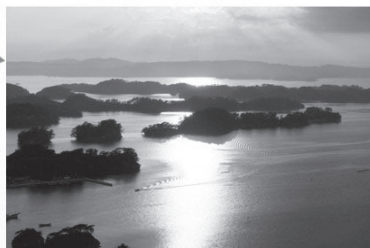


東松島市

世界遺産のモンサンミッシェル湾（フランス）やハロン湾（ベトナム）などが加盟する「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟する松島湾。その松島湾を臨む絶景の地をかかえる東松島市。



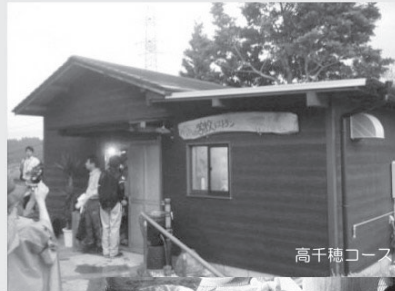
気仙沼市唐桑



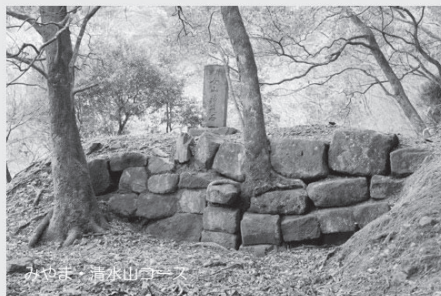
オルレの魅力 ①ありのまま



オルレの魅力 ②ローカルな食



オルレの魅力 ③小さな文化・歴史



オルレの魅力 ④小さなご褒美



オルレの魅力 ⑤交流



南島原コース



奥豊後コースで
農家民泊を楽しむ
韓国人



市民が提供してくれた休憩所(トイレ)がある
南島原コース



唐津コース

オルレの魅力 ⑦ひと



80歳のおばあさんがアンニョンハセヨと手を振る



地元の方が軒先とトイレを提供



地域の皆様が作ってくれた「かかし」
記念撮影スポットに。



リボンなどの標識を
定期的にチェックする
担当者

オルレの魅力 ⑥応用と進化



オルレの魅力 ⑥応用と進化

In JEJU





歩きながら自然を堪能する
九州オルレの風景

